医療法人喬成会　花川病院　広報誌

つながる手と手

～はなかわからのメッセージ～

第１号

もくじ

はじめに…新）地域連携相談センターのご紹介

「出張講座」のご案内…地域の皆さんの「あ、これ知りたい」に最寄の会館などへ出張してお答えします

「石狩市内病院部会」のご紹介…石狩市内 6 箇所の病院が手と手をとって市民の皆さんの暮らしをサポートします

職員のご紹介…新しい職員をご紹介します

折り込みチラシ　くろ散歩…ご近所さん訪問～熊谷病院さん～

●平成 26 年 5 月 12 日発行　●発行人：星野充明　●編集長：金子宏美　●企画・製作：花川病院地域連携相談センター

医療法人喬成会花川病院　〒061-3207　石狩市花川南 7 条 5 丁目 2 番地　代表電話（0133）73-5311

花川病院ホームページ　http://www.hanakawa-kyouseikai.or.jp/

新）地域連携相談センターのご紹介

　今年 1 月より、地域連携相談センターのセンター長を務めております金子　宏美と申します。
今年 4 月に新しい医療ソーシャルワーカー（MSW）を迎え、連携課・相談課総勢 8 名で、新体制がスタートしました。
相談課の MSW は回復期病棟・医療療養病棟併せて 3 つの病棟 5 名の MSW が全ての入院患者様へ入院前から退院まで関わらせていただいております。病気に伴い障害が残りリハビリが必要な方、自宅へ戻るために家屋評価、サービス調整が必要、施設入所相談、経済的支援など様々なご相談に対応しております。
連携課には保健師・ボランティアコーディネーターが各 1 名おり、入院前の患者様の状態確認や病院へのボランティアの導入、地域への出張講座などを行っております。
連携という言葉の通り、地域の潤滑油となるべく、地域の皆さんが安心して住み慣れたご自宅での生活が笑顔で送られますよう支援いたしております。
地域にどんな病院があるのかしら？病気になったり、リハビリしたい時どこに相談に行けば良いのかしら？介護保険・医療保険？など身近だけれどわかりにくいことは、生活しているとたくさん出てくるものです。そんな時、地域連携相談センターをうまく活用してみてはいかがでしょうか？見学相談その他、いつでもお受けいたします。まずは、ご相談してみてください。
　また、各医療機関・事業所の皆様におかれましては、新年度がスタートし、ご多忙のことと存じます。当院は、今年度も回復期病棟・医療療養病棟ともに変わりなく動き始めました。顔の見える関係で早期案内、柔軟な対応を心掛けて参ります。今後も何卒よろしくお願いいたします。

出張講座のご案内

以前の出張講座の様子

地域連携相談センターでは、地域の皆さんの介護にまつわる知りたい・聞きたいのご要望にお応えすべく“出張講座”を開催いたします。
医療ソーシャルワーカーや保健師が、地域の皆さんの日頃からのなぜ？どうして？（介護が必要になったらどうしたらよいのだろう？介護保険って？○○病院はどんな病院？等）を解決すべく、町内会・イベント・○○会などにお邪魔いたします。ご興味・関心のある方、まずはお問い合わせください（直通 0133-76-2727 担当：金子）。お待ちしております。（か）

病院部会のご紹介

【はじめに】

皆さんは、「2025 年問題」をご存知でしょうか？近年、少子高齢化が進んでおりますが、2025 年は、65 歳以上の人口が 3600 万人（人口の 30%）を超え、戦後の日本を支えた団塊の世代が 75 歳以上に到達する年です。つまり「2025 年問題」とは少子高齢化がさらに進み、この時代の医療や介護を支える担い手が減りゆく故に起こる様々な問題のことです。そこで、“高齢であっても病気や障がいがあっても、住み慣れた自宅や地域で安心して暮らし続けることができる”ことを目標に、石狩市内の保健医療福祉関係者が手を結び、協力しあって、平成 18 年より「いしかり医療と福祉のまちづくり広場（通称いしまち広場）」という団体で活動を行なっています。

【病院部会とは？】

「いしまち広場」に所属する石狩市内の 6 病院（①石狩病院、②石狩幸惺会病院、③熊谷病院、④晴生会病院、⑤花川病院、⑥茨戸病院【五十音順】）のソーシャルワーカーが集まり、病院部会を結成しました。初めての活動は、昨年 10 月に、りんくるで開催された「いしかり医療と福祉のまちづくりフェスタ」で、市民の皆さんに向けて“いざというときに安心して利用できる”をテーマに、①病院の機能・役割が分かれていること、②各病院の特色について、の講演でした。フェスタに参加された市民の皆さんからは、「今まで知らなかった病院の仕組みを理解することができた」「身近にこんな良い病院があると知ることができて良かった」など多くの感想をいただきました。

石狩市内病院活用セミナーの様子

このことから、私たちソーシャルワーカーは、ご本人やご家族が入院中から退院後の自宅や地域での生活に安心して戻れるようサポートする役割があり、“地域の病院同士のつながり、関係機関との切れ目のないネットワークづくり”が重要と考えています。

現在は今年 9 月にりんくるで開催される「第 2 回いしかり医療と福祉のまちづくりフェスタ」に向けて企画・検討中です。

病院が市民の皆さんにとってより身近に相談して頂ける存在になれたらと考えています。ぜひ、「第 2 回いしかり医療と福祉のまちづくりフェスタ」へ足をお運び下さい。お待ちしております。（と）

昨年のフェスタでポスターを掲示したコーナー

職員のご紹介　ふたりの職員をご紹介します

はじめまして、昨年 11 月より回復期病棟を担当しています医療ソーシャルワーカー（ＭＳＷ）の久泉　奈津子（ひさいずみ　なつこ）と申します。もともとは急性期の病院で勤務していましたが、ＭＳＷとして、患者様が退院後に住み慣れた地域で安心して生活できるように支援できたら･･･と思い、花川病院へ仲間入りしました。

私には二人の娘がおります。どちらも血液型はＯ型なのですが性格が正反対です。長女は超の付く引っ込み思案で典型的な内弁慶タイプですが、次女は人の目を気にせず我が道を行くタイプです。同じ環境で育ってもそれぞれ違うものですね。

普段関わる患者様が退院後どのような生活をしたいか意向を伺い他職種や関係機関と連携のもと可能な限り望む生活ができるよう支援させていただいています。患者様一人一人違う人生があって、それぞれの思いがあることを大切に関わらせて頂きたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

左：秋本 妙　　右：久泉 奈津子

4月から新しく医療相談課に入りました秋本　妙（あきもとたえ）と申します。花川病院に来る前は、後志管内の黒松内町にある地域包括支援センターに勤めており、地域の高齢者宅を訪問して日常生活の様々な相談事の対応やサービス調整などを行っていました。黒松内といえば道の駅！道の駅では出来たての美味しいパンやピザを販売しており、種類も豊富で、行列が出来るほどの人気です。その場で食べたりお持ち帰りも出来るので、道南に行かれる際はぜひお立ち寄りください。

私の担当する「回復期リハビリテーション病棟」は病名によって入院期間が定められています。1 日も早く病院や地域に慣れ、限られた期間の中で医療ソーシャルワーカーとして最大限ご本人の意欲やご家族の思いを大切にした関わりが出来るよう努めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

新体制となり、慌しく過ごしているうちに新年度が始まり、やっとの思いで広報誌「つながる手と手～はなかわからのメッセージ～」第 1 号を無事に発行することができました。我が部署のモットーは、1人1人が持ち味を存分に発揮し、全員が花川病院の顔となるべく役割を果たすことです。皆一丸となり、より良いものをという思いで完成しました。今後更に地域の皆さんのお役に立つ情報をお届けできるよう努めていきたいと思います。（か）

折り込みチラシ くろ散歩

ご近所さん訪問～熊谷病院さん～

スタッフいしぐろのご近所散歩記(？)です。

4/27（日）花川病院のお隣の熊谷病院さんにお邪魔しました。年間を通して、さまざまなコンサートを開催されている熊谷病院さんですが、今回は東日本大震災復興支援チャリティリサイタルにお招きいただきました。

当日のパンフレットとプログラム

誰もが聞き覚えのある有名なクラシック音楽を中心に 10 曲演奏されました。軽やかなピアノにあわせて、柔らかな、そして時に力強く胸にひびくバイオリンの演奏でした。アンコールには今の季節にぴったりの“さくらさくら”をピアノ演奏で応えてくださいました。「さくらを見てみたい」とおっしゃられていたバイオリン奏者のダヌーツ・マーニャ氏。帰国前に“日本のさくら”を堪能できたでしょうか？楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、リサイタルを名残惜しむ大きな拍手で幕を閉じました。

熊谷病院の皆さん、素敵な演奏会をありがとうございました。

花川病院のリハビリガーデン
「虹の橋」に咲いた かわいいお花たち

ところで、海外の方にも有名なさくらですが、皆さんは今年さくらをご覧になりましたか？今年は GW 明けがまさに見ごろでしたね。

さくらに続いて、うめやつつじが色鮮やかな花を咲かせることでしょう。お花見がてら外を歩いて、地域の催しに参加するには良い季節になりました。

花川病院では、7 月の夏祭りのほかに、院内見学や出張講座なども随時開催しております。

その際には、みなさんにお会いできることを楽しみにしております。（いしぐろ）